

令和6年度島根県統計グラフコンクール 特選作品講評

○第1部 特選

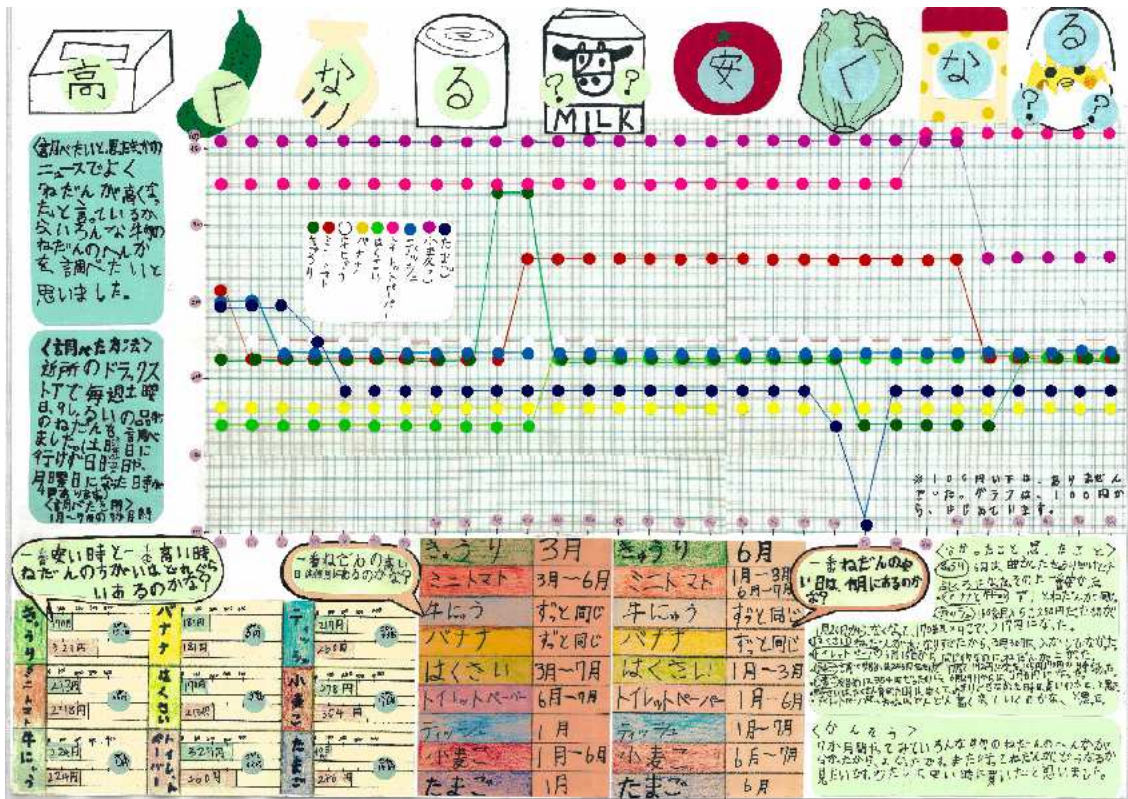


「のびるのびーるとどうなっとう!？」
松江市立内中原小学校 2年 影山 敦士

自ら納豆を混ぜ、回数と混ぜたもの別の2つのアプローチからデータをまとめている子どもらしい発想の作品です。

結果もグラフとして見やすく、絵と図、色合いもきれいに表現されています。

○第2部 特選



「高くなる??安くなる??」
松江市立城北小学校 3年 神田 桃

ニュースでも話題となっている物価について買い物についていく楽しみのなかで小学生の視点で切り込んでいく発想がすばらしいです。
長期間に渡って定期的にデータを取得しており、価格の推移が一目で分かる作品となっています。

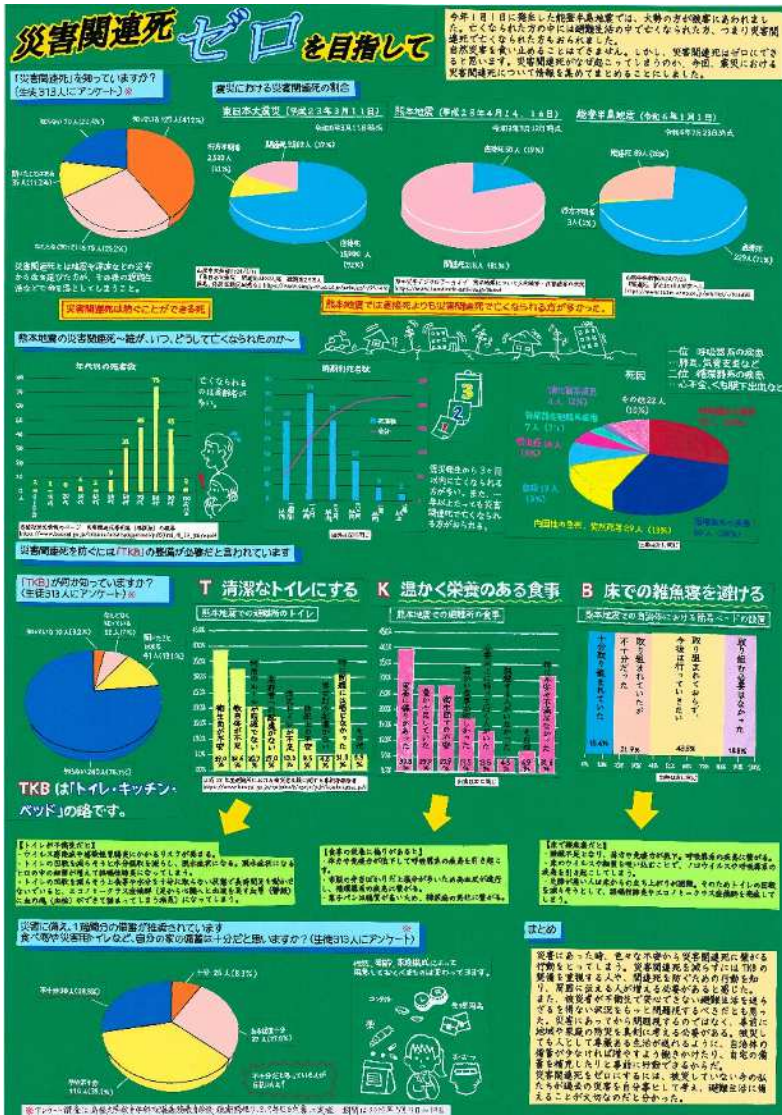
○第3部 特選



「宍道湖から夕日を見ている人はどのくらいいるの？」
 松江市立乃木小学校 5年 村山 冬華

テーマが地域性に富んでおり、郷土愛が感じられます。地元の良さを数値によって確かめ、グラフで表すことで客観的に捉え、これからの松江に思いを寄せている作品です。現地に足を運び、データを取っている姿勢がすばらしいです。作品全体の見た目も美しく、心に入ってきやすい好印象の作品です。

○第4部 特選



「災害関連死ゼロを目指して」

島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程 3年 片岡 睦深

緻密な紙面の構成でビジュアル的にも素晴らしいです。

グラフの意味をよく理解していて、見る人に内容が分かりやすく伝わる作品となっています。

災害発生時に注意すべきことが啓発されていて、これからの暮らしに生きる作品です。

松江の中学生に茶の湯文化は浸透しているか？

島根県松江市は、京都市・金沢市と並び日本三大菓子処です。松江藩主であった松平不昧公が、作法にこだわらずにお茶を楽しむ茶の湯文化を広め、今でも日常生活に茶の湯文化が根付いていると言われています。松江市内には老舗の和菓子屋、お茶屋が沢山あり、スーパーでも緑茶のコーナーが広くて、抹茶と一緒に茶せんも売っています。しかし、最近ではコーヒーや紅茶や色々なものを飲むようになり、「和菓子離れ」「抹茶離れ」が進んでいるそうです。そこで、現在の松江の中学生にどこまで茶の湯文化が浸透しているかを調べるため、アンケートを行いました。



全国的に緑茶の消費額は減少傾向となっている。日本三大菓子処の3都市の中で、松江市は、特に消費の低下のスピードが速い。県庁所在地と政令指定都市の52都市中、2009～2011年は緑茶の消費額は6位だったが、2021～2023年は全国平均を下回り、36位だった。また、和菓子の消費額は2009～2011年の5位から2021～2023年は28位と全国平均並みになっている。

松江の中学生は茶の湯に親しんでいるのだろうか？

アンケートの概要(松江市の茶の湯文化アンケート)
対象者:島根大学教育学部附属義務教育学校7年～9年生 310人
(生徒数355人、回収率87.3%)
方法:Google Forms (匿名) 時期:2024年7月16日～7月21日

Q 茶の湯文化に興味がありますか？



Q 抹茶を飲む人は、どこで飲みますか？

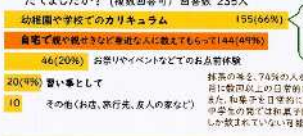


図の中学校では、60%以上が茶の湯文化に興味を持っていて、自分で抹茶をたてたことがある人が76%と非常に多かった。お茶や餅つきなどの行事から教員から教えられるという、学校の行事などで茶の湯文化は身近に感じている。茶の湯文化の根付いた松江ならではの結果だと思われる。これから茶の湯文化が浸透してきている。

Q 自分で抹茶をたてた経験はありますか？

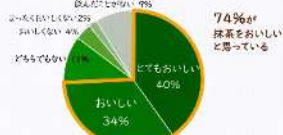


Q 抹茶を自分でたてた経験がある人は、どういう時にたてましたか？



最も幼稚園で台詞前を覗きました。松江市は茶畑で毎年24日「茶の湯の日」と定め、その場文化が根付いたの取組もみられています。抹茶の湯を76%の人が「おいしい」と答えているが、月に数回以上の頻度で抹茶を飲む人は17%と少ないです。また、和菓子を目覚めに食べる人は20%と非常に少なく、中学生の間では和菓子離れが進んでおり、抹茶は特別に嗜むしか飲まない可能性がある。

Q 抹茶の味をどう思いますか？



Q 抹茶を飲む頻度はどのくらいですか？



Q 和菓子を食べる頻度はどのくらいですか？

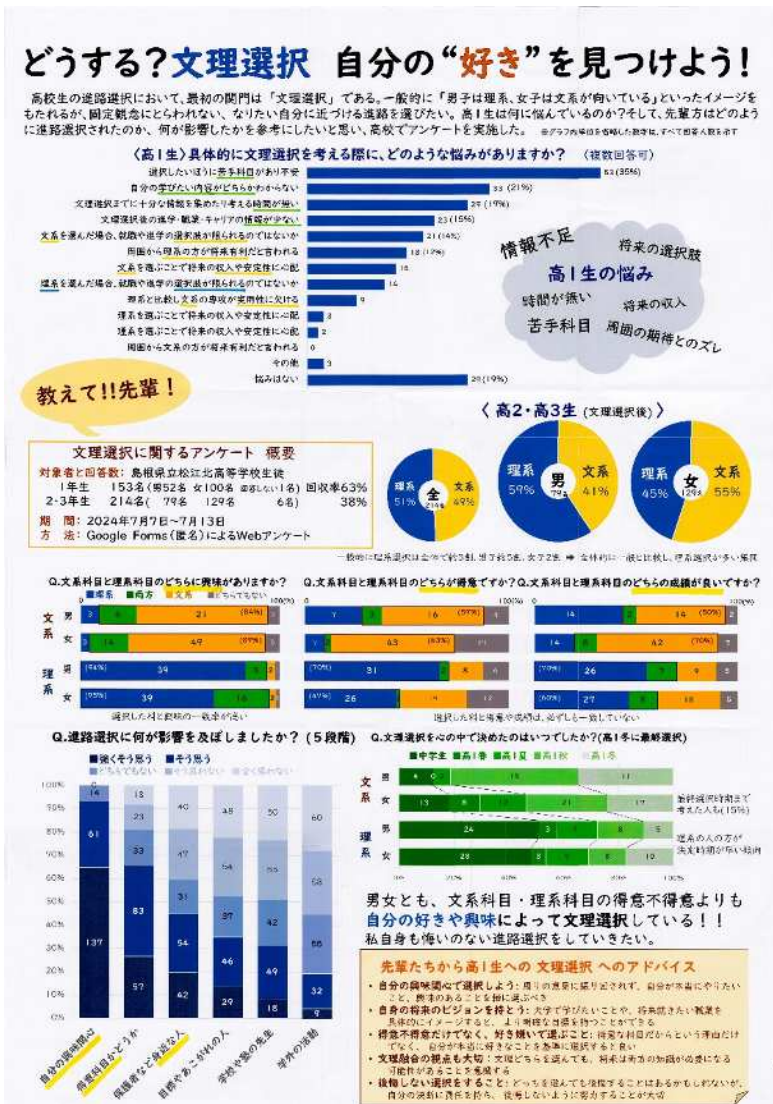


和菓子(上生菓子・平菓子)が人気で「梅干・羊羹・たい焼き・せんべい」など

「松江の中学生に茶の湯文化は浸透しているか？」
島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程 1年 岩本 暖之

松江らしいテーマで一つ一つのグラフが綺麗に描けている作品です。
ICTを活用し周りの友達から生のデータを収集している点も素晴らしいです。
質問の内容等によりグラフを使い分け、見た目・色使い共に工夫されています。

○第6部 特選



「どうする？文理選択 自分の“好き”を見つけよう！」
 島根県立松江北高等学校 1年 岩本 実久

高校生らしいテーマで、他の学年にもアプローチしている点が素晴らしいです。自分の将来を統計的に整理し、後輩へのアドバイスに繋げている点も評価できます。未来をどう描くかという統計の良さを存分に生かした素晴らしい作品となっています。